令和7年度

まちづくり推進部 十文字地域局の方針書

組織名	まちづくり推進部 十文字地域局
所属長名	畠山　容子

1. 局の使命（ありたい姿）

安心して、笑顔で、心豊かに暮らせる地域の「拠点」となります。

2. 局の抱える課題（現状）

(1) 業務が複雑・多様化する中で、職員の資質の向上を図り、不適正事務を起こさないことを目指しています。

(2) 住民一人ひとりに、適時・適切な情報がしっかり伝わり、安心して暮らせる環境を整えるとともに、地域の自主的な活動を支えながら元気を創出することを目指しています。

(3) 公共施設の適正な維持管理やFM計画に基づいた対応をするとともに、十文字副拠点整備構想を関係部署と連携し進めることを目指しています。

3. 今年度の『スローガン』

主役は市民！笑顔あふれる地域を目指し、力を尽くしていこう

4. 今年度の方針

(1) 職員の資質向上を図り、市民から信頼される地域局となります。

(2) 安全で安心な暮らしやすい環境の整備と、市民との協働による活力ある持続可能な地域づくりを推進します。

(3) 公共施設の適正な維持管理と未来につながる施設整備を推進します。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	職員の資質向上を図り、市民から信頼される地域局となっている
	取組内容	①どんな場面でも「元気なあいさつ」「気持ちの良い声かけ」を励行し、いつでも立ち寄りたくなる地域局にします。 ②相手の立場になって考え、分かりあうことを大切にしながら、窓口等サービスの向上を図ります。 ③一人ひとりが自らの資質の向上に努め、地域局内での対話と連携を図ります。 ④地域住民の最も身近な行政窓口として、様々な気付きを形にします。
(2)	実現したい成果	安全で安心な暮らしやすい環境の整備と、市民との協働による活力ある持続可能な地域づくりが推進されている
	取組内容	①地域づくり活動補助金等の制度周知と活用支援を行うとともに、地区交流センター運営協議会などの地域の自主的な活動を支えます。 ②全世代が、健康で安心して暮らせるための環境整備と地域づくりを進めます。 ③道路、水路、公園、空家等の状況把握に努め、安全に安心して暮らせる環境を整えます。
(3)	実現したい成果	公共施設の適正な維持管理と未来につながる施設整備が推進されている
	取組内容	①地域のニーズや状況を把握し、公共施設の適正な維持管理及びFM計画に基づく整備を行います。 ②副拠点エリア整備事業（十文字地域）においては、地域創造戦略室等関係部署との役割分担を明確にし、綿密な連携のもと、未来につながる施設整備に取り組みます。 ③学童施設や保育所の適正管理に努め、子どもたちを安全に預かる環境を整えます。

6．方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

(1)職員の資質向上を図り、市民から信頼される地域局となっている
①接遇マナーについて職員一人ひとりが意識する機会を設けながら、気持ちの良い声かけを励行した。また庁舎内外の清掃の徹底や適切な修繕を行い、環境整備に努めた。
②来庁者へ積極的に声をかけ用件を聞き取り、窓口・電話対応等においても、親切・丁寧かつ分かりやすさを心がけながら、「伝わる」ことを意識し対応をした。
③職員配置の体制を整えるとともに、各種研修への積極的な参加を促した。局内及び課内の打合せ会において様々な事情を共有し、係の枠を超えた業務の推進に努めた。
④住民の声を受け止め、若手職員が中心となって仕組みを検討し、改善を行った。

(2)安全で安心な暮らしやすい環境の整備と、市民との協働による活力ある持続可能な地域づくりが推進されている
①「じゅうもんじ地域局だより」に地域づくり活動補助金等の内容を掲載し周知を図った。3つの地区交流センター事務局との月例会を実施し、情報共有を図る機会を設けながら、各種事業等のサポートを行った。
②健康寿命の延伸を目指した各種健（検）診、予防接種及び計画的な健康相談・家庭訪問を実施した。また、民生児童委員の訪問活動と連携することにより、要支援者の把握や情報共有ができた。
③防災・防犯・交通安全に関する啓発活動を行うと共に、定期的にパトロールを実施し、道路や公園等における不具合箇所の対応をした。また悪天候に備えて水門の調整を行い安全を確保した。空家等については、台帳に搭載される全てを巡回の上、状態を把握し、所有者調査を実施した。

(3)公共施設の適正な維持管理と未来につながる施設整備が推進されている
①十文字西スポーツセンターとして活用するため、改修工事の段階的な確認や条例改正等の整備を行った（9月定例会可決）。指定管理施設については指定管理者との連携のもと、運営状況の把握等を行った。
②地域創造戦略室等関係部署との連携を密にし、シン・十文字拠点基本構想策定委員会に出席するなど、情報の共有に努めた。
③保育施設の危険箇所の補修や点検等により、安全な施設管理、保育環境を維持した。

7．年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1)職員の資質向上を図り、市民から信頼される地域局となっている
①接遇マナーについて職員間でお互いに意識し合いながら、気持ちの良い声かけを励行する。また降雪期に想定される危険を未然に防止するよう対応をする。
②来庁者へ積極的に声をかけ用件を聞き取り、窓口・電話対応等においても、親切・丁寧かつ分かりやすさを心がけながら、「伝わる」ことを意識し対応をする。
③研修に参加することで終わりではなく、そこで得たことを業務に活かすことが必須である。一人ひとりがこのことを意識し、研修の成果を活用する。
④住民の声を受け止め、職員間で意見を出し合いながら改善を行う。

(2)安全で安心な暮らしやすい環境の整備と、市民との協働による活力ある持続可能な地域づくりが推進されている
①補助金制度について、機会を捉えてさらに周知を図る。3つの地区交流センター事務局との月例会を通し、次年度の事業が充実したものになるよう、サポートを行う。
②各種健（検）診結果に基づき、受診勧奨等を実施する。引き続き、民生児童委員等と連携しながら支援にあたる。
③冬季間の除排雪作業に伴う事故防止対策を施す。引き続き、定期的なパトロールを実施し、道路や公園などの適正な維持管理や、空家等の適切な措置を講じる。

(3)公共施設の適正な維持管理と未来につながる施設整備が推進されている
①十文字西スポーツセンターは、改修工事により市内で唯一の人工芝を敷設した屋内運動場となることから、令和8年1月のリニューアルオープンに向けて更なる利用促進（周知）を図る。降雪期の危険を想定しながら、公共施設の適正な維持管理に努める。
②引き続き、地域創造戦略室等関係部署との連携を密にし、シン・十文字拠点基本構想策定委員会に出席するなど、情報の共有に努める。
③保育施設の危険個所の補修や点検等により、引き続き安全な施設管理、保育環境を維持する。

8．総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）